



平成 23 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
(JASDAQ・コード番号：2776)
代表者名 代表取締役社長 姚 健
問合せ先 専務取締役 児玉俊明
電 話 03-5637-0505

平成 24 年 1 月期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

当社は最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 3 月 17 日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 1 月期 連結業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 23 年 2 月 1 日～平成 23 年 7 月 31 日)

(単位:百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,778	60	40	14	円 銭 580.12
今回修正予想 (B)	1,530	△208	△218	△273	円 銭 △11,312.31
増 減 額 (B-A)	△248	△268	△258	△287	
増 減 率	△13.9	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 1 月期)	—	—	—	—	円 銭 —

(2) 通期(平成 23 年 2 月 1 日～平成 24 年 1 月 31 日)

(単位:百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,250	195	155	105	円 銭 4,350.89
今回修正予想 (B)	3,422	△135	△165	△245	円 銭 △10,152.07
増 減 額 (B-A)	172	△330	△320	△350	
増 減 率	5.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 23 年 1 月期)	4,911	△362	△296	△329	円 銭 △13,635.72

(注) 前事業年度につきましては第3四半期末より連結決算へと移行したことにより、第2四半期累計期間における前期実績は記載してありません。

2. 平成24年1月期 個別業績予想の修正

(1) 第2四半期累計期間(平成23年2月1日～平成23年7月31日)

(単位:百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,628	51	31	7	円 銭 290.06
今回修正予想 (B)	1,380	△213	△223	△276	円 銭 △11,436.62
増減額 (B-A)	△248	△264	△254	△283	
増減率	△15.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成23年1月期)	2,915	△55	△17	△21	円 銭 △872.93

(2) 通期(平成23年2月1日～平成24年1月31日)

(単位:百万円 %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,100	186	146	98	円 銭 4,060.83
今回修正予想 (B)	3,172	△143	△173	△250	円 銭 △10,359.26
増減額 (B-A)	72	△329	△319	△348	
増減率	2.3	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成23年1月期)	4,818	△360	△301	△333	円 銭 △13,806.96

3. 修正の理由

(第2四半期累計期間)

当第2四半期累計期間(平成23年2月1日～平成23年7月31日)におけるカジュアルウェア市場におきましては、東日本大震災やその後の原発被害や関東における計画停電などが影響し、消費者の生活防衛意識の高まりや消費の自粛などにより個人消費は厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、基幹事業であります卸売事業において、消費マインドの冷え込み等による影響から販売数量が当初計画を下回り、また低価格志向の強まりにより販売単価が下落し、売上高は前回予想を下回ることとなりました。一方、販売費及び一般管理費につきましては、諸経費削減等による費用の圧縮に努め概ね計画値通りに推移いたしました。

しかしながら、売上高の減少による売上総利益の減少を販売費及び一般管理費の削減ではカバーをすることが出来ず、結果、営業利益、経常利益及び当期純利益は前回予想を下回る見通しとなりました。

(通期)

第3四半期以降の業績見通しにつきましては、個人消費を含めたマーケット状況を踏まえ、低価格志向の強まりから価格戦略商品の投入を計画し売上高の確保に努める見通しであります。また、販売費及び一般管理費につきましては、本社機能移転に伴う地代家賃や

その他諸経費の見直し等を行い削減してまいります。

しかしながら、現状の趨勢から保守的に勘案し、通期につきましても営業利益、経常利益及び当期純利益ともに当初予想を下回る見通しとなり、業績予想の修正を行なうものがあります。

尚、個別業績予想の修正理由につきましては第2四半期累計期間、通期とも連結の修正理由と同じであります。

4. 債務超過の見込み

上記の通り、当社は平成24年1月期において当期純損失245百万円を計上することにより、同期末において34百万円の債務超過となる見込みであります。

当社はこの状況を解消すべく、財務体質の強化を目指し、早期に資本の増強策の実施を検討してまいります。

(注) 上記予想は、現時点において入手可能な情報に基づいて算出したのもであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上